

**Anritsu**  
envision : ensure

# 第93期中間報告書

2018年4月1日から2018年9月30日まで

アンリツ株式会社

[www.anritsu.com/ir](http://www.anritsu.com/ir)

93rd  
Interim Report





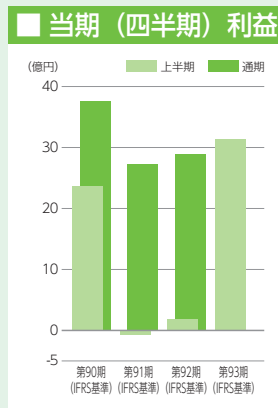
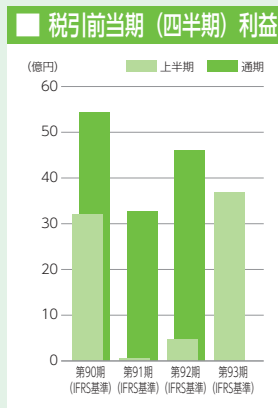
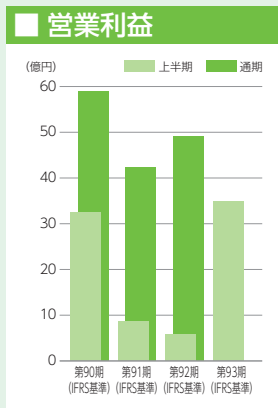
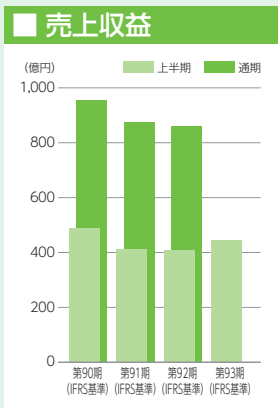
株主の皆様におかれましては、平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第93期上半期（2018年4月1日から2018年9月30日まで）の事業の概況並びに決算の状況をご報告申し上げます。

今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年12月

グループCEO 橋本 敏一



## ■ 当社グループを取り巻く事業環境 及び当上半期の主な取組み

情報通信分野においては、モバイル・ブロードバンド・サービスは質量ともに拡がりを見せ、データ通信量は急速に増加して、ネットワーク・インフラを逼迫させつつあります。それらの課題を解決するために、モバイル通信方式4Gは、LTE (Long Term Evolution) 及びLTE-Advanced、そしてLTE-Advanced Pro (Gigabit LTE) と進化し続けています。加えて、次世代の通信方式5Gの仕様策定が3GPPで進行しています。2017年12月に5G NSA-NR、2018年6月に5G SA-NRの標準化が完了し、5Gの主要機能の全仕様が規定されました。その結果、各国主要キャリアの5Gの商用化に向けたロードマップが具体化してきました。それに伴い、5G商用化に向けた通信用半導体の初期開発投資が順調に行われています。

このような環境のもと、計測事業グループは、5Gの開発投資需要を獲得するためのソリューションの開発と組織体制の整備に注力しました。

PQA事業の分野においては、加工食品生産ラインの自

動化投資が進むとともに、X線を用いた異物検出並びに包装に関する品質保証などの需要が堅調に拡大しています。

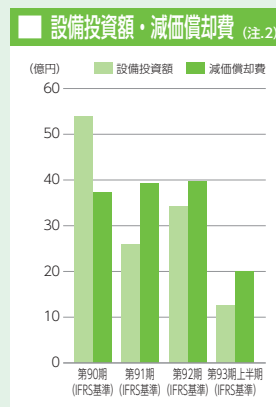
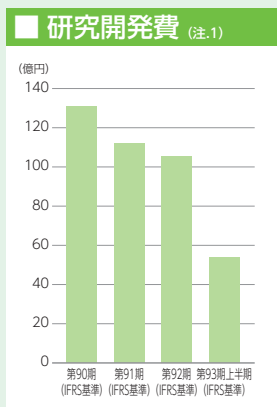
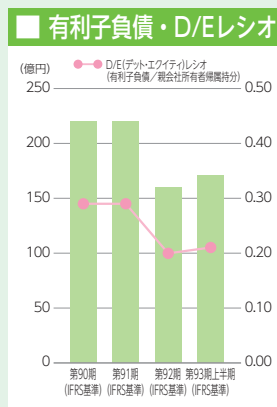
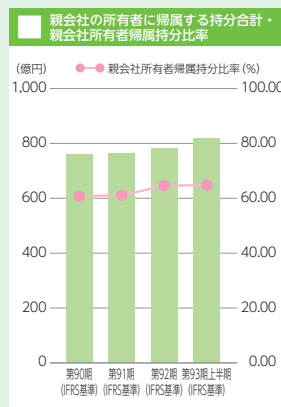
PQA事業グループは、このような状況下でX線を軸としたソリューションの競争力強化と海外の販売体制の整備拡充に取り組みました。

## ■ 当上半期の業績概要

この結果、受注高は479億9百万円（前年同期比12.2%増）、売上収益は443億35百万円（前年同期比9.0%増）、営業利益は34億82百万円（前年同期比507.3%増）、税引前四半期利益は36億78百万円（前年同期比669.2%増）、四半期利益は31億41百万円（前年同期は1億99百万円）、親会社の所有者に帰属する四半期利益は31億25百万円（前年同期は1億93百万円）となりました。

## ■ 株主の皆様への中間配当

以上の結果、株主の皆様への中間配当につきましては1株につき、8円50銭とさせていただきます。

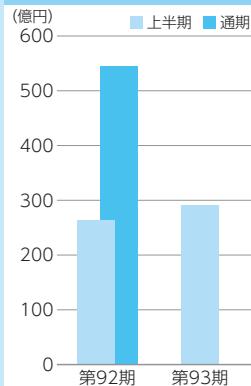


(注.1) 研究開発費は、一部資産化した開発費を含め研究開発費投資額を記載しております。  
(注.2) 設備投資額は、期中に無形資産に計上した資産化開発費は含めておりません。  
減価償却費は、無形資産に計上している資産化開発費の償却額は含めておりません。

## 計測事業

- 売上収益 291億56百万円 (前年同期比10.5%増)
- 営業利益 25億43百万円 (前年同期比 -%)

### ●売上収益の推移

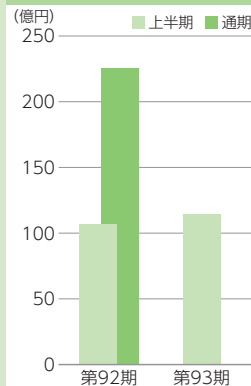


5Gシステム開発用測定器

## PQA(プロダクツ・クオリティ・アシュアランス)事業

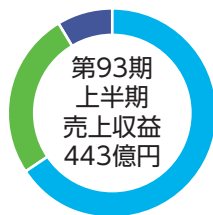
- 売上収益 114億40百万円 (前年同期比 6.8%増)
- 営業利益 8億51百万円 (前年同期比 6.5%減)

### ●売上収益の推移



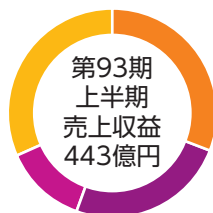
X線异物検出機

## ■事業部門別売上収益 (連結)



- 計測 29,156百万円 (65.8%)
- PQA 11,440百万円 (25.8%)
- その他 3,738百万円 (8.4%)

## ■地域別売上収益 (連結)



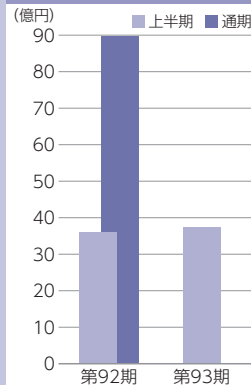
- 日本 13,800百万円 (31.1%)
- 米州 10,940百万円 (24.7%)
- EMEA 5,652百万円 (12.8%)
- アジア他 13,941百万円 (31.4%)

(EMEA: 欧州・中近東・アフリカ)

## ■その他の事業

- 売上収益 37億38百万円 (前年同期比 3.8%増)
- 営業利益 4億35百万円 (前年同期比 17.8%増)

### ●売上収益の推移



PureFlow WS1



200G/400G対応リニアドライバ

## 要約連結財政状態計算書

(第92期 2018年3月31日現在)  
(第93期上半期 2018年9月30日現在)

(単位：百万円)

科目	第92期	第93期 上半期
<b>資産</b>		
<b>流動資産</b>	<b>79,576</b>	<b>85,609</b>
現金及び現金同等物	35,452	43,584
営業債権及びその他の債権	21,474	20,001
その他の金融資産	1,164	765
棚卸資産	18,236	18,649
未収法人所得税	128	220
その他の流動資産	3,120	2,389
<b>非流動資産</b>	<b>41,613</b>	<b>40,679</b>
有形固定資産	25,947	25,668
のれん及び無形資産	3,993	3,803
投資不動産	1,463	913
営業債権及びその他の債権	326	305
その他の金融資産	2,747	3,114
繰延税金資産	7,125	6,864
その他の非流動資産	9	9
<b>資産合計</b>	<b>121,190</b>	<b>126,289</b>
<b>負債</b>		
<b>流動負債</b>	<b>26,803</b>	<b>28,629</b>
営業債務及びその他の債務	7,998	6,192
社債及び借入金	4,467	6,128
その他の金融負債	73	95
未払法人所得税	2,352	1,999
従業員給付	5,254	5,427
引当金	323	555
その他の流動負債	6,333	8,229
<b>非流動負債</b>	<b>16,073</b>	<b>15,748</b>
営業債務及びその他の債務	500	422
社債及び借入金	11,477	10,970
その他の金融負債	153	137
従業員給付	2,247	2,548
引当金	108	109
繰延税金負債	185	211
その他の非流動負債	1,400	1,348
<b>負債合計</b>	<b>42,876</b>	<b>44,377</b>
<b>資本</b>		
<b>親会社の所有者に帰属する持分合計</b>	<b>78,230</b>	<b>81,813</b>
資本金	19,064	19,081
資本剰余金	28,137	28,138
利益剰余金	26,254	28,557
自己株式	△ 987	△ 964
その他の資本の構成要素	5,761	7,000
<b>非支配持分</b>	<b>83</b>	<b>98</b>
<b>資本合計</b>	<b>78,313</b>	<b>81,912</b>
<b>負債・資本合計</b>	<b>121,190</b>	<b>126,289</b>

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 要約連結純損益及びその他の包括利益計算書

(第92期上半期：2017年4月1日から2017年9月30日まで)  
(第93期上半期：2018年4月1日から2018年9月30日まで)

(単位：百万円)

科目	第92期 上半期	第93期 上半期
<b>売上収益</b>	<b>40,690</b>	<b>44,335</b>
売上原価	21,231	22,188
<b>売上総利益</b>	<b>19,459</b>	<b>22,146</b>
<b>その他の収益・費用</b>		
販売費及び一般管理費	13,614	13,579
研究開発費	5,135	5,226
その他の収益	145	337
その他の費用	280	195
<b>営業利益</b>	<b>573</b>	<b>3,482</b>
金融収益	152	365
金融費用	247	168
<b>税引前四半期利益</b>	<b>478</b>	<b>3,678</b>
<b>法人所得税費用</b>	<b>278</b>	<b>537</b>
<b>四半期利益 (△は損失)</b>	<b>199</b>	<b>3,141</b>
純損益に振り替えられることのない項目	275	253
純損益に振り替えられる可能性のある項目	727	985
<b>その他の包括利益合計</b>	<b>1,002</b>	<b>1,238</b>
<b>四半期包括利益 (△は損失)</b>	<b>1,202</b>	<b>4,380</b>

<b>四半期利益の帰属</b>		
親会社の所有者	193	3,125
非支配持分	6	16
<b>四半期包括利益の帰属</b>		
親会社の所有者	1,196	4,364
非支配持分	6	16
1株当たり四半期利益 (△は損失) (親会社の所有者に帰属)		
基本的1株当たり四半期利益 (円)	1.41	22.75
希薄化後1株当たり四半期利益 (円)	1.41	22.74

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 要約連結キャッシュ・フロー計算書

(第92期上半期：2017年4月1日から2017年9月30日まで)  
(第93期上半期：2018年4月1日から2018年9月30日まで)

(単位：百万円)

科目	第92期 上半期	第93期 上半期
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>5,976</b>	<b>8,095</b>
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 1,498</b>	<b>△ 535</b>
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 7,060</b>	<b>108</b>
<b>IV 現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>425</b>	<b>462</b>
<b>V 現金及び現金同等物の増減額</b>	<b>△ 2,156</b>	<b>8,131</b>
<b>VI 現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>39,682</b>	<b>35,452</b>
<b>VII 現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>37,525</b>	<b>43,584</b>

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 5Gシステムの早期商用サービス開始をサポート



### ■GCFがME7834NRを5G NR用テストプラットフォームとして登録

5G NRモバイルデバイステストプラットフォームME7834NRが、GCF (Global Certification Forum) より、5G NR端末用テストプラットフォームとして登録されました。GCFは、携帯端末のグローバルな相互接続性を保証するため、ネットワークでの運用基準や携帯端末の認証試験基準を定めている団体であり、測定器の認証を行っています。

ME7834NRは、3GPPで規定された5G NRのプロトコルコンFORMANCE試験と事業者受入試験をサポートします。

GCFにおいて、5G NRのテストプラットフォームTP251として登録されたことにより、ME7834NRの信頼性が認められました。

### ■韓国KTがME7834NRを採用

ME7834NRが、韓国最大の通信事業者であるKTに採用されました。

KTはME7834NRを用いて、5G New Radio (5G NR) 技術を搭載した機器の受入試験を行います。KTは、5Gサービスの商用展開に向け、受入試験用のテストプラットフォームの導入を検討していました。アンリツは、モバイル通信向けテストソリューションにおいて世界的に実績があり、3G及び4Gの通信事業者向け端末受入試験における幅広い製品ポートフォリオを有しています。この取組みを基盤に、ME7834NRでKTの5G NR端末の受入試験をサポートすることを提案し、採用されました。



ME7834

## ■Samsung Electronics社と共同でMT8000Aを使った5G NR IODTに成功

Samsung Electronics社のシステムLSI事業部が、ラジオコミュニケーションテストステーションMT8000AとRF測定/プロトコル試験ソフトウェアを用いて、Samsung Exynos Modem 5100のIODT（端末と基地局の相互運用試験）に成功しました。Samsung Exynos Modem 5100は5G NR対応の通信モデムであり、Samsung Electronics社では基地局との接続検証を行う段階に入っています。

今回の成功により、本モデムの接続品質が確認されました。

同社のHur Woonhaing副社長からは次のようなお言葉をいただきました。

「アンリツは、我々の最先端の5G技術に対し、理想的なテストソリューションを提供し、5Gの迅速な実現と展開に多大な貢献をしています」



MT8000A

## アンリツインフィビス ～ワールドクラスの品質保証ソリューションパートナーに向けて～

### ■X線検査機のラインアップ拡充

X線検査機は、検査品の内部を透視し、異物だけでなく、検査品の形状不良や数量不足も検査できることから、用途が広がっています。今回、アンリツインフィビス(株)は、X線検査機器のラインアップを拡充し、サイドビューモデルとデュアルエナジーセンサー搭載モデルの2機種を新たに市場に投入しました。

一般的なX線検査機は対象物の上部からX線を照射しますが、サイドビューモデルは、水平方向に照射できます。ペットボトルやスタンディングパウチなど、小売店の商品棚に立てて並んでいる商品は製造ラインでも立てたまま流すことが多く、その状態で異物検査も行いたいというお客さまのニーズに応えるために開発しました。

デュアルエナジーセンサー搭載モデルは、エネルギーの異なるX線透過画像を同時に取得し、画像の差分処理技術により、残骨や異物だけを鮮明に取り出すことができます。従来機より微小骨の検出精度が向上したことで、消費者からのクレームの低減に貢献できます。



新製品をお披露目したFOOMA展

## 会社の概要 (2018年9月30日現在)

商号 アンリツ株式会社  
ANRITSU CORPORATION  
本社 神奈川県厚木市恩名五丁目1番1号  
(〒243-8555)  
創立 1931年3月17日  
資本金 190億円  
従業員数 3,768名(連結) 855名(単独)

## 役員 (2018年9月30日現在)

代表取締役	橋本裕一
代表取締役	濱田宏一
取締役	谷合俊澄
取締役	窪田顕文
取締役	新美眞澄
取締役(社外取締役)	佐野高志
取締役(社外取締役)	井上雄二
取締役(監査等委員)(社外取締役)	関孝哉
取締役(監査等委員)(社外取締役)	五十嵐則夫
取締役(常勤監査等委員)	永田修

## 執行役員・理事 (2018年9月30日現在)

会長(グループCEO)	※橋本裕一
社長	※濱田宏一
常務執行役員	※清家高志
常務執行役員	※窪田顕文
常務執行役員	※新美眞澄
執行役員	橋本康
執行役員	脇永徹
執行役員	高橋幸宏
執行役員	高木一雄
執行役員	武内一郎
執行役員	藤掛博幸
執行役員	島田史
執行役員	内野嘉之
専務理事	※谷合俊澄
専務理事	※川辺哲雄
専務理事	※高門深彦

(注) ※印を付した執行役員・理事は、取締役を兼務しております。

## 株式の状況 (2018年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 / 400,000,000株
- 発行済株式総数 / 138,160,794株
- 株主数 / 24,030名
- 株式の所有者別状況

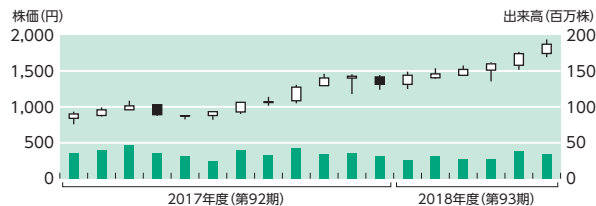
証券会社 (52名) 4,193千株 (3.0%)	その他の法人 (247名) 3,078千株 (2.2%)	個人その他 (23,461名) 24,058千株 (17.4%)
金融機関 (47名) 60,058千株 (43.5%)	外国法人等 (223名) 46,771千株 (33.9%)	

### 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	25,386	18.46
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	11,809	8.59
BBH FOR MATTHEWS ASIA DIVIDEND FUND	9,384	6.82
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	2,849	2.07
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	2,673	1.94
J U N I P E R	2,627	1.91
GOVERNMENT OF NORWAY	2,372	1.73
住友生命保険相互会社	2,314	1.68
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	2,048	1.49
JP MORGAN CHASE BANK 385151	2,013	1.46

(注) 持株比率は自己株式(645,970株)を控除して計算しております。

### 株価・出来高の推移



## 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当金 毎年3月31日  
中間配当金 毎年9月30日  
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

### 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関

三井住友信託銀行株式会社

### 株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(郵便物送付先) 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-0063)  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) ☎ 0120-782-031  
(インターネットホームページURL)

<https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

### ■公告の方法

当社ホームページに掲載します。

(URL) <http://www.anritsu.com/koukoku>